

平成26年6月30日～7月6日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について
（お知らせ）（平成26年度第4報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月12日(月)から情報提供を開始したところです。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行うことといたしました。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. 先週(6月30日～7月6日)の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上(危険)の時間数(168時間中)

1. 久米島(沖縄県)	62時間
2. 与那国島、石垣島、南大東島(沖縄県)	57時間
3. 宮古島(沖縄県)	50時間
4. 西表島(沖縄県)	48時間
5. 名護(沖縄県)	40時間
6. 沖永良部(鹿児島県)	31時間
7. 那覇(沖縄県)	28時間
8. 名瀬(鹿児島県)	10時間
9. 父島(東京都)	9時間

<参考>全国9都市の観測地点

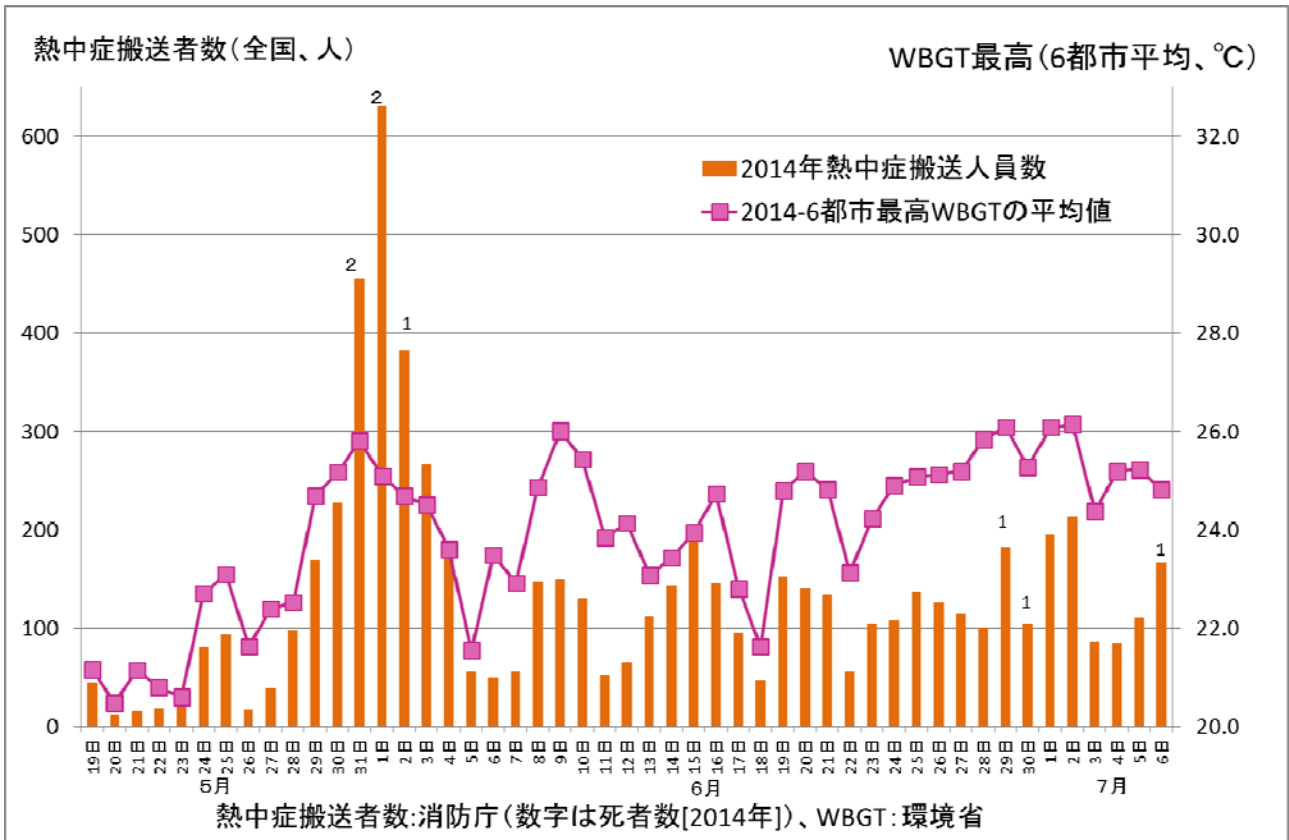
札幌(北海道)	0時間
仙台(宮城県)	0時間
新潟(新潟県)	0時間
東京(東京都)	0時間
名古屋(愛知県)	0時間
大阪(大阪府)	0時間
広島(広島県)	0時間
福岡(福岡県)	0時間
鹿児島(鹿児島県)	0時間

(注1) 暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

(注2) 暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、久米島の62時間が最多で、153地点のうち142地点では0時間でした。なお、暑さ指数31℃以上とは、(公財)日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数（全国）との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、6月30日～7月6日までの期間は24～26°Cで、熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によると、85～213名とやや高い水準になっています。同期間の熱中症による救急搬送者数は、関東甲信地方から九州地方で梅雨明けが早かった昨年に比べて、やや少なくなっています。
 - 梅雨明けとなっている南西諸島では、6月30日～7月6日までの期間、昼間の日最高暑さ指数(WBGT)は31～32°Cで、熱中症危険度の「運動は原則禁止」を示すWBGT31°Cを上回った地点が多く、熱中症に対して「危険」な状態となっています。また、熱中症危険度の「厳重注意」を示すWBGT28°Cを超えた地点は10～15地点(全153地点中)で、東日本から西日本の広い範囲でも、熱中症に注意が必要な状態になっています。
 - 気象庁発表(7月10日11時時点)の週間天気予報では、最高気温・最低気温ともに、平年並か平年より高い所が多く、かなり高くなる日もある見込みです。
 - 梅雨明け後や梅雨明け前の晴れ間で急に暑くなる日は、熱中症に対して特に注意が必要です。今週末はかなりの高温が予想されている地域もあり、屋外での無理な作業や運動を控え、こまめな水分補給や積極的に休息をとるなど、体調管理に注意してください。最新の気象情報を利用し、熱中症に対し十分に注意してください。
- (注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。
6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡